Interview

Grant Bluett

Akita World Games Gold Medalist

– 優勝おめでとうございます。初めてのビッグイベントだね。

国歌が演奏されたのを聞くのは初めてだよ。とてもかっこ良かった。イベントとしての位置付けに関して言えば、ちょっとなんとも言えないけど。世界選手権ほどではないけど、その次ぐらいというところかな。でも２０年後にどうなっているかは分からないよね。ワールドゲームズ優勝をみんな目指しているかもしれない。

– 今回のような短めのタイプが得意のようだけど。

去年はどちらかと言うとクラシックでうまくいっていたんだけど。今年はどうやら、短いので調子良いみたいだ。３０分が僕に調度良かったみたい。自分ではスピードがあると思っているんだ。もちろん、アジアでとてもうまく走れるということもあるんだけどね。理由はここでは、他の選手と同じ立場であると感じられることだ。

– 非ヨーロッパ諸国のヒーローと感じることもあるんじゃない？

いや（笑）、そんなことないけど。アリスタ・ランデルズ（編注：ニュージーランドのエース、９０年代活躍）、数年前僕が若かった頃は彼がヒーローだったよ。でも、自分についてそう思うことはないね。そう思われることはとても嬉しいことだけど。ただ、基本的には自分のゴールを持っていて、どんどん上に行く努力をしていて、他の人がどういう風に考えているかに着いては興味ないんだ。

– 成功している理由の一つとしてスウェーデンに住んでいることが挙げられるかな。

３、４年になるけど。違いは確実に感じるよ。遥かに多く経験を積むことが出来た。かなりのレース数をこなしているから、どんなレースでも、同じようなシチュエーションにいたことがあるな、と思えるんだ。林の中でのトレーニングがとても増えたので、体力的にも強くなっているよ。

個人戦のフィニッシュ

– スウェーデンに移り住もうと思うのに何が決め手になったのだろう。

いつも行きたいなとは思っていたんだけどね。何年も一緒にいた彼女がいて、それを理由に行かなかったんだ。でも、彼女と別れてしまって、とにかく行かないといけなくなったんだよ。行ってみたらとても楽しかったさ。もちろん、今はスウェーデン人の彼女も出来て、スウェーデンに残る理由があるし。でも大変だったよ。もし日本に彼女がいるんだったら、君らもやっぱ行けないでしょ。お金もさっぱりなくなってしまったし。

– 仕事はなかったの。

始めはね。でもベビーシッターの仕事をみつけたんだ。ヨルゲン・モルテンソンの家で（笑）。そこで１年間働いたけど、とても良い経験だったよ。彼のおかげでスウェーデンに残ることが出来た。それから、いくつかの職を転々として。それから今の職を見つけたんだ。

– そう、オリエンテーリングの学校で教えていると聞いたけど。

スウェーデンにはオリエンテーリングを教えている学校が二つあるんだけど、その一つでフルタイムで教えている。まあ、普通の学校なんだけど、教えている科目の一つがオリエンテーリングということ。一週間で二つの４時間のレッスンと、二つの２時間のレッスン。それは、トレーニング時間だけだから、テレインに運転していってトレーニングも出来るんだ。それで、夜には理論の時間もある。

– どんな選手が卒業しているの。

ヨルゲン・モルテンソン。ものすごい昔だけどね。ここ秋田で走っているマッツ・トロエンもそうだよ。３、４年前かな卒業したのは。その弟のイアン、現在世界の若手でトップクラスの彼は去年卒業した。スウェーデンのトップ選手の多くは卒業生だよ。

– アジアパシフィックの選手達としても、そういうところに行くのが一つの方法だと思う？

そうだね、交換留学生が来たことはあるよ。１年の留学とかはあり得るんじゃないかな。

フィニッシュ直後、後続のランナーの動向を見守るグラントとプレスたち

– ワールドゲームズを始め、オリンピック競技への動きや、観戦しやすくしようとしている IOF の様々な試みについてはどう思う？

まあ、方向性については賛成さ。オリンピック種目になったら最高だね。でも、詳細については気に入らないことはいっぱいあるよ。ただ、大きい方向性が決まっているときに、そういう細かい部分に気を取られすぎてはいけないんだけどね。

– 今日のカメラなんかはどう？林の中で追われて気にならなかった？

後ろにカメラが追っていたの？全くオーケーだよ。そういうことには大分なれてしまった。林の中にカメラが入っていることを気にする人はいないよ。むしろ、とても良いことだね。観客にとって、面白いし。

– 新しい種目なんかは？

そうだね、でもクラシックチャンピオンにはなりたいね。まだまだ、みんなクラシックが目標なんじゃないかな。変わることがないかもしれない。

– オーストラリアは世界選手権、とても良い結果だったけど。

男子チームはとても良くやったと思っているよ。女子は以前ほどではなかったけど。とにかく、本当にスイートだったね。一緒にトレーニングし、競いあい、成長してきた4人のランナーがいて。友達同士としてお互いプッシュしあうと同時に、それぞれ、一番になりたかったんだ。でも、本当に長かった。一つ一つの世界選手権、打ちのめされて。そして、今回の結果だ。

– オーストラリア、そしてグラントにとっての次のゴールは何だろう。

今年は中国、ソウル、バンコクでのパークワールドツアーだ。これからはそれに向けてのトレーニングだけど、来年についてはあまり考えていないよ。再来年になれば、スイスの世界選手権がある。でも、ワールドカップは、あんまり好きじゃない。そこら中を飛び回らないといけないし、とても大変だ。その仕組みはとても不公平だと思う。特にスウェーデンやノルウェーなんかはチームで行動し、グループリーダーが全ての雑務をし、旅費さえも払う必要がないところ、僕達は全て自分達でなるべく安価にやらないといけない。もうたくさんだ。スウェーデンで一つレースがあるからそれを走って、あとスイスであるから、それにはトレーニングもかねて出る。でも、目標ではないね。

– オーストラリアチームにとっての目標は？

現在、4人同レベルがいて、追い上げているのが 3,4 人いるから、益々期待できるよ。僕達4人がまずベースでいて、他の連中が割って入ろうとしてくるんだから、将来は明るいよ。次の夢は世界選手権で3位以内。6位になることについては本当にとても長い間夢として語ってきたんだ。だから今度はトップ3に入ることを話し始めるさ。それがどれくらいかかるかは、まだ分からないけどね。

リレーでも上位を争う
オーストラリアチーム

– トロイ・デ・ハース（編注：オーストラリア代表）はなんで秋田に来れなかったの？

お金がなかったんだよ。支援はあるんだけど、旅費を全部払ってもらえるわけじゃないから。トロイはフィンランドの学生で働いていないんだ。

– 日本チームにアドバイスとかあるかな。

もしうまくなりたいのだったら、競技を追って、ヨーロッパに来てレースをいっぱいこなすことが必要だよ。オーストラリアにいたら、僕は2位に5分差を着けて優勝したりして、それで満足してしまっただろう。でも、本当は10 分差で負けているんだよね。だから、打ちのめされるのは良い事なんだよ。そして、少しずつ近づいていくんだ。もちろん、スカンジナビアに引っ越すのはとても大きな決意が必要とは思うけど。

– 日本の読者にメッセージはどう。

本当に楽しいよ。日本からの人たちを大勢知っているしね。全ての名前を覚えることはできないけど、レースなんかで見かけるのは楽しいよ。世界選手権なんかで見た連中もいるしね。

– 日本での世界選手権でまた会えると良いけど。

もしかしたらね。３２になっているけど。ひょっとしたら．．．スイス、それからだね。

– そのときには、「グラントを倒すぞ」といきこんでいる連中がいっぱいいるんじゃないか。

そうなっているといいけどね。

– 日本のファンもそう期待しているよ。今回は本当におめでとうございました。

（インタビュア/翻訳：山本英勝）